

## 令和4年度 村長と語り合うタウンミーティング（真崎地区）実施報告書

### 1, 開催概要

日時：第1回 令和5年2月11日（土）10：00～12：00

第2回 令和5年2月26日（日）10：00～12：00

会場：真崎コミュニティセンター会議室

参加者：第1回 14名（1名欠席），第2回 14名（1名欠席）

ファシリテーター：伊藤 史紀氏（株式会社 Co-Lab）

：堀田 誉氏（同上）※第1回のみ

### 2, 第1回議事概要（◇=参加者発言，◆=村長発言）

#### 村長から話題提供

#### 村長からの話を受けて、思ったこと・感じたこと（グループワーク）

ABCDの4つのグループにわかれ対話し、グループごとに意見を取りまとめ、1つずつ発表した。

#### 【Cグループ】

◇東海村と原子力は切り離せないものだと考えている。子どもの頃から当たり前である。ただ、原子力施設があっても東海村の優位性や差別化が見えない。雇用にも関わってくるだろう。原子力の安全性をPRできるといい。原子力施設が在ることは受け入れるが、これから村としてどうしていくか聞きたい。

◆原子力についての説明は必要だと思う。ただ、行政が事業者には直接は関われない。「何をやっている所か」まで説明するのは、事業者が努力するところ。原子力関係の事業者は雇用につながるように協議会をつくっている。そのため、村では原子力研究開発のPRをしている。学生にも選択肢が生まれる。事業者支援として、最終的な雇用まで村が実施するのは難しい。

#### 【Dグループ】

◇東海村は住みやすいと話す人が多かった。一方、住宅の購入援助や子育て世帯への支援等を実施しても情報が届いていない。PRが下手なのではないか。上手くPRしてほしい。公共施設の利用方法では、特に歴史と未来の交流館は、利用目的や方法が分からないという意見があった。そして、国道245号が4車線に拡幅すれば、更に交通の利便性が向上するのではという意見もあった。

◆自分の仕事を誰に対してPRするのか職員に話しているが、上手くいっていないことは反省点である。子育て支援については、他市町村よりも取り組みが遅れたこともあり、PRがより必要であった。色々な施策で周知の仕方を工夫しなければならないと思う。交流館については、多様な世代に利用してもらえるようになることが課題である。

#### 【Bグループ】

◇村を盛り上げるため、人口流出を防ぎ、優秀な人材が村の中で育ち留まってほしい。そのためには、教育が大事。村の中で中高一貫校のような学校をつくり、村内の原子力関係などで働いてほしい。

◆教育は大事で、村で誇れるのは教育だ。小学校1・2年生は県では35人学級のところ、村では30人学級としており、必要な教員を村で採用している。他にもスタディサポーター、生活指導員、

図書館指導員などを村が採用して、手厚い教育をしており評価されている。村内に東海高校はあるが、高校で水戸や日立に行く人が多い。また、県は中高一貫教育をやっている。高校、大学進学で村を出ても、村への愛着を持って、生活をするときには村に戻ってきてもらいたい。茨大をはじめ大学院の誘致等についても、可能性があればまた進めていきたい。

#### 【Aグループ】

◇防災に関してだが、避難訓練をやっているが、そんなに仰々しいものではなくて、イベントと抱き合わせで実施するなどしてはどうか。また、原子力に関わらずエネルギーに関する大学を誘致してはどうか。村内には、東京大学大学院もある。水素とかそういったエネルギー関連のものに取り組んでどうか。野田市は東京理科大と連携して一緒に進めているものもある。

◆訓練は重要だが、確かに堅苦しい面もある。原子力災害が特別なようだが、自然災害の訓練も大事なので、合わせた訓練もできるようにしたいし、普段の生活で意識が高まるようにしたい。水素とか新しいものに目を向ける意味では、常陸那珂港区はカーボンニュートラルポータルを目指して県主導でやっている。県の取組みに対し協力していきたい。J-PARCもあるし、大学とは連携してやっていきたい。

#### 村長に質問したいこと、対話したいこと（グループワーク）

ABCDの4つのグループにわかれ対話し、グループ毎に意見を取りまとめ、1つずつ発表した。

#### 【Aグループ】

◇待機児童が多い。待機児童の対応についてはどうか。

◆国で言っている「待機児童」は少ないが、来年度以降発生する可能性がある。ただ「入所待ち」はいる。新しい保育所を建てたりもしたが、なかなか民間で0～2歳保育をやってくれるところもない。一時期は減ったものの、ここでまた増えてきた。直ぐに対処はできないのだが、認識はしている。

#### 【Cグループ】

◇街灯が少なく暗いところがあるので、増やしてほしい。

◆原研通りでも暗いと言われている。防犯灯は地域の要望を受けてやっているが、街路灯のところは道路整備と一緒にやっているものの、職員も夜の村の様子は意識がないのだと思う。村としてきちんと認識してやっていきたい。

#### 【Bグループ】

◇移動について、車がないとどこにも動けない。車の免許を返納する人も多く、二酸化炭素排出の問題もあり、移動手段と最後のワンマイルについて、どう考えているのか。

◆村内の移動は、路線バスとデマンドタクシーだ。路線バスは、常磐線の西側にも走らせたが、人が乗らず、採算も合わないことから、結局なくなってしまった。デマンドタクシーだが、村内のみしか移動できず、日曜と夜間は乗れないものの、タクシー業界の圧迫になるため、限界がある。どういう移動手段が皆さんの移動にいいのか、引き続き研究していく。

#### 【Dグループ】

◇東海村でもキャッシュレス決済でのポイント還元キャンペーンがあったが、高齢者は面倒に思

い、キャンペーンに参加できなかったようだ。村からの支援が必要だと思うが、そのあたりの支援はどのように考えているのか。

◆村は、住民が来庁しなくても手続きができるような取組を進めているし、村の仕事のDX化やスマホ相談会を実施している。手続きに慣れない方などは、何度でもスマホ相談会に来てもらい、デジタルを活用できる人を増やし、村としても環境の整備をしていきたい。キャッシュレス決済についても、導入すると手数料がかかるが、長い目でみれば、顧客の増加に繋がると思う。

#### 【Aグループ】

◇原子力発電所の安全対策と住民避難については、それぞれでやるのではなく、村民に分かりやすくするため、一体としてやってはどうか。安全対策は今ここまで進んでいるので、これを超えたら避難なんだというように、再稼働の賛成反対ではなく、村民の安全安心のためにそれをぜひ進めてもらいたい。

◆今は安全対策、防災対策は別になっているが、最終的に村が避難計画を説明する際には、当然2つがリンクしていないとわからないのでリンクしてやっていきたいと思っている。

### 3、第2回議事概要 (◇=参加者発言、◆=村長発言)

#### 村長に質問したいこと、対話したいこと (グループワーク)

ABCDの4つのグループにわかれ、第1回のタウンミーティングを振り返った後、意見交換し、グループごとに意見を取りまとめ、1つずつ発表した。

#### 【Cグループ】

◇原子力と教育の関わりについて聞きたい。子どもの職業体験を受け入れているが、学校の授業では、原子力に関する教育に踏み込めていないのではと思う。もう少し原子力に関する授業を取り入れてもよいのではないか。子供は興味がないものを親には話さないし、親もわからない。

◆正直、学校の中では、原子力に対してきちんと説明できていないと思っている。様々な教材があるし、原子力に対する教え方も先生によっても異なる。どの教材を使うかでも違う。主観が入ってもよろしくない、どうやって教育するかは皆悩みどころ。学習指導要領の外側でどう入れ込むかは難しい。生涯学習の側面なら村でできるかもしれないが、国民理解が進まないと変な教育をしているとのイメージを持たれても困る。そういう意味では、今はできていないということが答えになる。

◇難しいということは承知していた。ただ、原子力施設が11施設あり、それらで何をやっているかを子どもに見学させたり教えたりすれば、親もわかるし、教育を受けた子どもがどんどん大きくなっていったら、そこに雇用があり、そこで働くことはWIN-WINになるのではないか。

◆エンジョイサマースクールに親子で参加するのもよいのではないかと考えている。

◇原子力というとすぐにエネルギーになってしまうが、それは違うと思う。それを変えていく必要があると思う。

◆その通りだと思う。エネルギー面ばかり注目されるが、原子力には放射線医療、J-PARCもあるし、「原子力」＝「エネルギー」だけでないことは伝えていきたい。

#### 【Aグループ】

◇電源立地地域対策交付金の内訳についてももう少し詳しく知りたい。また、公共交通の話が出たが、タクシーアプリを使ったサービスを導入してはどうか。あとは待機児童のことで、子どもが減って

いくなか、保育所の整備を民間と連携したり、コミセンを活用して保育経験のある方を活用したりしてはどうか。そういったところに資金を使ってはどうか。それと、もう少し産業・情報プラザをうまく活用してはどうか。

◆約15億円の電源立地地域対策交付金のうち、半分は保育所等の運営費・人件費に使っていて、残りの半分はどんなハードに充てられるか毎年悩みながら見つけているが、無理に見つけられない時は無理に使わず基金に積んでいる。これから新設でこれ以上“ハコモノ”を造ることは考えていない。ただ、道路や基盤整備は行っていく。また、文化センター駐車場の整備と、阿漕ヶ浦周辺の整備は行おうと思っている。ソフト経費にも充てたいが縛りがある。保育所の問題は、産業・情報プラザなども考えられるが、給食の調理ができないので保育所としての活用は難しい。いずれにしても、電源立地地域対策交付金はニーズを見極め有効に活用していきたい。

◇ハード整備について言えば、五反田線につながる道路を早く整備してもらいたい。公園整備も自分の家の真裏を工事しており、振動もあるため早く工事を終わらせてほしいというのが率直な願いである。

◆中央土地区画整理事業地内は、高低差があるので、土を地区内で動かしながら行っている。一気に進めると、余った土の保管場所や運搬費用が必要になり、その分経費が今よりもかかる。区画整理の範囲内で土を動かせば、期間はかかるが全体的な工事費は抑えられる。じれったいが、できるだけ早く整備していきたい。

#### 【Bグループ】

◇「歩く」をキーワードに話をした。青森県の八戸からいわきの勿来まで「みちのく潮風トレイル」と「ふくしま浜街道トレイル」が来ている。茨城県側でも取り組んでほしい。道路の安全では、出退勤の際、車で細い道でもスピードを出している車があり、歩くのに危なく、特に通学時は注意が必要だ。また、歩いて移動するにしても、歩道が狭いなど歩きにくいところもある。また、街灯が切れているところもある。どこに伝えたらよいかわからないため、困ったときに対応する「すぐやる課」などがあるとよいのではないかな。

◆来年度から、「歩くこと」を中心にした「ウォークアブルなまちづくり」をしていきたい。ヘルスロードもあるし、コンパクトで移動もしやすいが、歩いたその先に「楽しみ」があるように、親子で歩いたり、まちを再発見したり、ポイントを集めるなど、楽しむきっかけを作っていきたいし、歩道整備も必要になる。車や街灯の話は盲点で、職員は日中はともかく、夜の街の状況はなかなかわからない面もある。職員が住んでいる皆さんの意識をしっかりと持つことから始めていきたい。住民の皆さんのリアルな生活をどう職員が感じられるかが大切だ。「すぐやる課」については予定はないが、今後の課題とさせてほしい。

#### 【Dグループ】

◇他グループでも意見のあった「学校での原子力教育」についてだが、コロナ流行時、「正しく怖がろう」という広報を見た。原子力も同じだと思う。学校教育もそこから始めてはどうか。この点をまずは言わせてもらいたい。前回のタウンミーティングでは、新築補助や断熱窓の補助等の話を聞いたが、新築補助については、ハウスメーカーで「転入者限定」と言われ、絶句した。金額の大小ではないが、転入者に手厚く、税金を納めている住民には補助がないということでは、住民にやさしくない。転入者は増えても、転出する人も増えてしまうのではないかな。

◆原子力教育は、正しく知識を伝えることが必要だ。そこはしっかり配慮していきたい。転入者だけ手厚いという指摘だが、今、東海村は、出生数が減っているため、何とか転入者を呼び込みたいと考えている。転入者は地価の高い市街化区域しか買えないので、その分の補填だと区別して考えている。今後は、もともと住んでいる人と転入者のバランスもとっていきたい。

#### 4、アンケート結果（抜粋）

①タウンミーティングに参加して、満足度はいかがでしたか。

5（満足）	4（やや満足）	3（ふつう）	2（やや不満）	1（不満）
8名	6名	0名	0名	0名

（自由記述欄）

- ・グループワーキングでコミュニケーションが図られた。
- ・いろんな人の意見が聞けた。多角的に考えられる。
- ・無作為に抽出しているのであれば、もっと若い方々にも参加してもらえる工夫を！
- ・他の村民と対話することができて楽しかった。
- ・始まる前は長時間だと思うが、始まって話が進むと時間が足りなかった。
- ・こちらの意見、村長のご意見、双方で話し合うことができてよかった。
- ・色々な住民から意見が聞けて、また、山田村長や村役場の職員の方からも教えていただき大変良かった。ただし、今回は「まちづくりと原子力」というテーマでしたが、原子力関連予算の利用に関してだけで、原子力防災に関する話が少なかったように感じました。

②タウンミーティングに参加した前後で、あなたの行政や地域への関心、参加意欲は変化がありましたか。

5（高くなった）	4（やや高くなった）	3（変わらない）	2（やや低くなった）	1（低くなった）
7名	6名	1名	0名	0名

（自由記述欄）

- ・各々が村政に関して様々な思いがあることが分かった。
- ・今まで地域に係ることがほぼ無かったが、これからは少しはと考え始めた処。
- ・色々な制度があったのを知れて良かった。
- ・役場のホームページを見るようになった。
- ・行政や地域に対して、個人的に感じていたことと、他の参加者が感じていることが共通であることが確認できました。

